

「小児がん看護ケアガイドライン2018」は、2012年版から6年の歳月を経て、小児がん医療の体制が大きく変わろうとしている中、小児がんの子どもや家族のさらなるQOLの改善に向けて、小児がん看護に携わる方々に活用して頂きたいという目的で、日本小児がん看護学会ケア検討委員会委員を中心に、理事会役員はじめ多数の小児看護専門看護師の方々の力を結集して作成しました。

小児がんの子どもと家族の日々のケアが改善されるためには、子どもを看る経験の多くない看護師にも、子どもの理解や親子関係・家族関係の理解など基本的な知識と小児がん特有の専門的なケアが求められます。そのため、本ガイドラインは小児がん看護の臨床実践家と小児看護学教員がペアで執筆しました。また、本ガイドラインの医学的知識の項に関しては、神奈川県立こども医療センター血液・腫瘍科部長の後藤裕明医師に最終確認をして頂きました。

ご協力してくださった皆様に感謝申し上げます。

小児がん看護の領域では、看護実践を変革するエビデンスはそれほど多くはないものの、各施設で様々な工夫がなされ、子どもや家族のよりよい状態を創り出そうと実践的、記述的研究がなされてきております。

今後、日本小児がん看護学会会員の皆様には、子ども・家族中心ケアという視点をさらに積極的に推進し、子どもや家族にとって望ましいとされるケア、入院中の子どもの生活における制限をできるだけなくし、安心して安全な療養環境を整え、小児がんの子どもが、その子らしい、その状況に応じた日常生活を送るための支援に繋げていってくださるようにと願っています。

今回のケアモデルの記述は、小児がん看護に携わる小児看護専門看護師の臨床経験に基づき、執筆して頂きました。今後は、当事者である小児がんの子どもや家族とともに研究活動を行うことも視野に入れ、多職種も含めた協働実践のケアモデルの開発を進めていきたいと思えます。

なお、本研究班の全国調査の結果においても看護師への教育の必要性が示唆されており、日本小児がん看護学会では、様々な臨床の場で小児がんの子どもと家族のケアに携わっている看護師や多職種の皆様への小児がんの子どもへのケアに関する教育に取り組む予定です。本学会ホームページをご覧ください、ぜひご活用くださるようお願いいたします。

2019年3月

日本小児がん看護学会ケア検討委員会
内田 雅代 竹之内直子 平田 美佳
小原 美江 白井 史